

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 60年の歴史を刻む本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。

1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。

- ・新学習指導要領における各教科の「新教科スタンダード」を作成するとともに「新枚高マップ」の令和6年度の完成、7年度以降の充実をめざす。
- ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。
- ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを構築していく。
- ・リーディングGIGAハイスクール指定校として、校内体制の整備を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践のための教員研修や公開授業を実施する。これらの取り組み等により、令和7年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%（R2 86% R3 85.1% R4 85%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.25以上を維持する。（R2 3.25 R3 3.37 R4 3.36）

（※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点））

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

- ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和7年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R2 6人 R3 4人 R4 4人）
- ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和7年度85%以上に。（R2 84% R3 82% R4 82.3%）
- ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。自己診断における「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R2 81% R3 83% R4 80.1%）の肯定率を令和7年度に83%以上とする。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

- ・学校行事での主体的な取り組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率、令和7年度90%を維持する。（R2 92.4% R3 94.4% R4 88.0%）
- ・部活動加入率について、令和7年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（R2 75% R3 71.9% R4 76.1%）

(2) 生活規律を確立させる取り組みを充実させる。

- ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和7年度に向けて指導を継続していく。（R2 940人 R3 861人 R4 594人）
- ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を引き続き実施する。

(1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

- ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究会」等に積極的に参加し、令和7年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上（R2 92.2% R3 91.2% R4 89.3%）とする。
- ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和7年度の国際文化科卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。

(2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。

- ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取り組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取り組みとその成果を国際教養科、普通科とも共有し、令和7年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R2 94.6% R3 92.1% R4 90.2%）とする。
- ・ユネスコ・スクールとしての取り組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 広報活動の強化。

- ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力やアドミッションポリシー等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や情報提供を組織的に行う。

(2) 教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。

- ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。
- ・効率的な学校運営に向けて、ペーパーレスの一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化をさらに進め、業務縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4 年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。 イ 教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICTの活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める	ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.25以上の維持[3.38] イ ・相互授業見学期間を2回設け研鑽の機会とする。[2回] ・教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を向上させる。[85%]	
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 家庭学習を含めた学習指導のあり方について、教科・学年を越えて検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進路指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 ウ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒支援体制を充実させ、SCや関係外部機関との連携を進める。いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談を充実させる。 エ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積む機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な探究の時間」において、SDGs 課題研究などを通して課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。	ア「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日60分以上、休日平均90分以上に[1・2年平均平日49分、休日72分] イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上の生徒割合2年生(2回め)50%をめざす。 [47.0%]。 ・現役生国公立大5人以上かつ関関同立50人以上の合格をめざす[国公立4人、関関同立81人] ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率の向上。[82.3%] 「いじめについて真剣に対応」の肯定率90%以上の維持。[90.9%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率85%以上の維持[88.8%] エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[95.7%]、「人権について学ぶ機会がある」[96.8%]の肯定率90%以上の維持。	
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校活動の活性化を推進し、行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施することで、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。	ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上。[84.3%] ・自己診断「学習と部活動の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率の向上。[77.5%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率の向上。[88.0%]	
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実し、規則を再確認する。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導を継続する ・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる ・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア・年間総遅刻者数1,000人未満維持[594人] ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上。[生徒71.2%、保護者88.2%] ・交通安全及び薬物乱用防止について、それぞれ講演を実施し、指導の充実に努める。 ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率80%。 [78%]	
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語4技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	ア 英語4技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科1・2年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。 イ 英語暗唱弁論大会の充実、改修された視聴覚教室でのポスターセッション等の実施を踏まえ「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究発表会」等へ積極的な参加を促す。	ア 英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。卒業時の2級合格60%以上、準2級合格85%以上[29%、61%]。 イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率90%以上。[89.3%]	
	(2) 国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア オンラインを含む海外交流や海外研修の推進を図る。 イ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。 ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユネスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。	ア・オンラインを含む国際交流や海外研修を合わせて年間5回以上実施する。[5回] イ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%以上の維持。[90.2%] ウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率の向上。[73.0%]	
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報機能の更なる充実に努め、学校説明会の活性化や中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。 イ 学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。	ア 学校説明会の参加者数1,000人以上の維持。[1200人] イ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率90%以上。[89.6%]	
	(2) 教育環境のさらなる充実	ア ICT機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。 イ 会議でのプロジェクター活用、校内イントラネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進。各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。	ア ICT環境の改善に努め、組織的に活用し、さらなる授業改善をめざす。教員の活用率の95%以上維持(自己診断「教員のICT活用」[97.5%]) イ・職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を一層進めるとともに、職員会議や各種会議でのペーパーレス化を一層進める。	